

6章 時間構文

問題

【1】

A.

全訳

実際、積極的で建設的な事業を達成するのがやさしいことはめったになく、時間がかかり困難であるが、一方で破壊はすばやく広範囲に渡り激しいものであり得るということを考えてみると、戦争が悪であることは実に明白である。現段階の人類の文明を築くのに人類は何千年もかかったが、2, 3時間のボタンを押すだけの戦争で全世界は破壊され得るのである。

B.

全訳

①長年の間チベットを訪問しようとしていたが、私が中国当局から必要な承認を得たのは去年になってからのことであった。チベットは中華人民共和国の自治区である。出発する前に、私はできるだけ広範囲に渡ってチベットについての文献を読んだ。②多くの記事がよくある見解、つまりチベットは景色のよい地域で、幸福な住民はダライ・ラマ（法主）を信仰的及び世俗的なリーダーとして仏教の教えに基づいた生活を送っているという見解を述べているが、イギリス人の探検家たちの今世紀前半の記述を注意深く読むことにより、非常に異なる状況が明らかになる。

C.

全訳

夕食の少し前に、客の1人が、母屋からテラスに出て、水場に通じる石段に腰を下ろした。
①彼がそこに行って10分もしないうちに、家中にささやき声が充満した。気分でも悪いのか、誰かに腹を立てているのか、というのである。
ついに、我々のうちの1人が勇気を奮い起こし、彼が座っているところに歩いて行って、どうかしたのか、と尋ねた。彼はひどくびっくりして顔を上げた。
②「もちろんそんなことはありません」と彼は答えた。「ちょっと一人でいたかっただけです。家ではなかなかこういった機会がないものですから」
その時になって③「孤独」という語が現代社会ではほとんど消滅した語であるということ
を我々は思いついた。

【2】

解答

- (1) この世の中で、人間が創ったのではなく、また人間によって根底的に変えられることのなかった部分。
- (2) as
- (3) b

(4) 「全訳」の下線部①～③参照。

解説

(1) Here is one simple definition of the word. (ここに1つの簡単な定義がある。)とあり、次の文でその内容が述べられているので、その部分を日本語にして答えれば良い。

(2) regard A as B 「AをBと見なす」

(3) 第2段落全体で述べられている人間の自然に対する様々な矛盾した態度を指す。

(4)

①◇ It is the mountains, the woods, the rivers, the trees, the plants and the animals which … 「それ (Nature) とは、 … であるような山、森、川、木、植物、動物のことである」

○ It : Nature を指す。

○ which : the mountains, the woods, the rivers, the trees, the plants and the animals を先行詞とする関係代名詞。

◇ … which have continued to be very much what they would have been had he never existed 「人間が存在しなかったとしたら、そうであっただろう姿を、かなりそのまま保ち続けてきている…」

○ had he never existed を条件節とする仮定法過去完了形。had he ～ は if he had ～ の if を省略したための倒置形。

○ what they would have been は補語になっている部分で、what he is (彼の現在の姿) などと同じ形。

②◇ it is equally true that … 「というのも同様に真実である」

○ it は that 節を受ける形式主語

◇ he *had scarcely* built the first cities *before* he began to try to get away from them 「最初の都市を創るやいなや、人間は都市から逃げ出そうとした」

○ had scarcely … before [when] ～ 「…するとすぐ～」

= had no sooner … than ～, as soon as …

③◇ All this reveals ～ 「これら全てのことは～を明らかにする→これらすべてのことによって～が明らかになる」《無生物主語構文》

○ All this : ℓ. 17 In ancient Greece ～ ℓ. 20 bird watching の内容を指す。

◇ his unwillingness to let go of what, in theory at least, he has not valued 「少なくとも理論的には尊重してこなかったものを、人間が手放したがっていないということ」

○ unwillingness to *do* 「…したがること」

○ let go of ～ 「～を手放す」

○ what <挿入> he has not valued 「人間が尊重してこなかったもの」

○ of の目的語になる名詞節

○ in theory 「理論的に」

○ at least 「少なくとも」

「自然」とは何か。ここにその語の1つの簡単な定義がある。自然とはこの世の中で、人間が創ったのではなく、また人間の手によって根底的に変えられることのなかった部分である。①自然とは、人間が存在しなかったとしたらそうであったであろう姿を、かなりそのまま保ち続けてきている山、森、川、木や、植物、動物のことである。

もちろん別の意味では、人間自身も自然の一部である。しかし人間はまた、非常に多くの点できわめて独特なので、人間と自然、特に人間もまたその一部であるこの自然の、人間と人間以外の部分との関係について話すのが都合が良い。

この（人間と自然との）関係は、人間には決して忘れることのできないものであるが、人間は自然に対してきわめて多様な反応の仕方をする。人間は時には自然を味方とみなし、時には敵とみなす。人間は自然を愛しまた恐れる。人間は自然を利用し、破壊する。自然は人間が逃れようとし、さらには自分のものにしておきたいと願うものである。人間は自然を壊して自分の家や工場を作り、今度は自然に帰りたいと願う。人間は自然に人間の秩序と文明を押しつけようとして、今度は人間と自然が一体となっていた黄金時代を自分が夢見ていることに、突然気づくのである。

この矛盾は文明そのものと同じくらい古くからあるものである。なるほど人間は生きることが比較的安全になって初めて、自然のより荒々しい面を賛美するようになったには違いないが、②人間が最初の都市を創るやいなや、もう都市から逃げ出そうとし始めたということも同様に事実なのである。古代ギリシアの詩人は羊飼いの生活を理想化した。現代の世界では、技術者や産業経営者、あるいはまた摩天楼の建設者たちは、自分の家族を郊外の別宅へ引っ越させている。彼は木を植え庭を作る。また動物をペットとして手に入れ、ことによるとバードウォッチングを始めることもあるだろう。③こうした全てのことから、少なくとも理論的には彼が尊重してこなかったものを、彼は手放したがっていないということがわかるのである。

注

- ℓ. 1 ○ Nature is *that* part of the world *which* man did not make and *which* has not been fundamentally changed by him 「自然とはこの世の中で、人間が創ったのではなく、また人間の手によって根本的に変えられることのなかった部分である」
- that : 関係代名詞の先行詞を指し示す用法。指示性は弱く日本語の訳には現れない場合が多い。
- part は2つの *which* 節によって修飾されている。
- fundamentally 「根本的に；全く」
- ℓ. 5 ◇ himself : man を強調する再帰代名詞。
- ◇ he is also in so many ways so unique that it is convenient to speak of man *and* Nature 「人間はまた、非常に多くの点できわめて独特なので、人間と自然について話すのが都合がよい」
- so ~ that … 「非常に～なので…」
- it is convenient to … : it は to … を受ける形式主語。
- speak of man *and* Nature : 前で「人間も自然の一部である」と述べてあるが、人

間は非常に独特であるので「人間と自然」と別にして言う方が都合がいい、ということ
ことで and がイタリック体になっている。

- ℓ. 6 ◇ especially of man's relation to the rest of this Nature of which he is also a part 「特に、人間もまたその一部であるこの自然の人間と人間以外の部分との関係について」
- the rest of ～ 「～の残り」
 - of which : a part of ～ の of が関係代名詞の前に出た形。
cf. he is also a part of this Nature
- ℓ. 8 ◇ respond to ～ 「～に反応する」
- ◇ in most diverse ways 「きわめて多様な方法で」《絶対最上級》
- ℓ. 10 ◇ Nature is what he tries to get away from and then something he wishes to keep
「自然は人間が逃れようとし、さらには自分のものにしておきたいと願うものである」
- what … : 補語になる名詞節
- ℓ. 11 ◇ He replaces it with his homes and factories 「人間はそれ (= Nature) を家や工場と取り替える」《直訳》
- replace A with [by] B 「AをBと取り替える」
- ℓ. 12 ◇ impose on it human order and civilization 「それ (= Nature) に人間の秩序や文明を押しつける」
- impose A on B 「BにAを押しつける；課す」(Aが長いために後置された形)
- ℓ. 13 ◇ finds himself dreaming of ～ 「自分が～を夢見ていることに気づく」
- find O …ing 「Oが…していることに気づく」
- ℓ. 14 ◇ itself : civilization を強調する再帰代名詞
- ◇ Though it is true that … 「…というのは真実だが」
 - it は that … を受ける形式主語。
 - ◇ man *never* admired the more savage aspects of Nature *until* life had become comparatively safe 「人間は生きるということが比較的安全になって初めて、自然のより荒々しい面を賛美するようになった」
 - never [not] … until ～ 「～するまで…しない；～して初めて…する」
= … only after ～
 - これを強調構文で表すと 'it is not until life had become comparatively safe that man admired the more savage aspects of Nature' となる。
 - savage [sævidʒ] 「獰猛な；荒れた」
 - had become : 過去完了形。過去のある時点よりもさらに前の事を示す。
- ℓ. 20 ◇ take up ～ 「～を趣味として始める」

【3】



整理しよう

前置詞のマスター3 “from”

解答・解説

- (1) She loved him from the day she first met him.
○「SがVした日から」は, from the day (when) S V とすればよい。
- (2) He ordered the book from America.
○日本語では「AをBに注文する」と言ってしまうが, 英語では order A from B であるので注意。
- (3) This cheese is made from quality milk.
○よく言われるように, 一般に be made of 〜は「材料」, be made from 〜は「原料」, be made into 〜は「製品」を表す。
- (4) The Japanese economy will go from bad to worse.
○from bad to worse は「『悪い』から『さらに悪い』へ」, つまり「ますます悪い方へ」という意味の決まり文句。
- (5) A voice came from under the desk.
○文法的には二重前置詞などと言われる形。from は「〜から」という意味で「起点」を表すが, 起点である場所を前置詞句で表すこともある。

前置詞のマスター4 “to”

解答・解説

- (1) To the best of my knowledge, they were dancing to her guitar.
○to the best of one's knowledge「〜が知る限り」
○dance to 〜「〜（音楽など）に合わせて踊る」
- (2) Please keep the password to this computer to yourself.
○keep 〜 to oneself「〜を誰にも話さないでおく」
○the answer to this question（この問題の答え）と同じく, 「このコンピュータへのパスワード」と考えて to を用いるのが普通。
- (3) Much to our surprise, she didn't even apologize to us.
○to one's + 感情名詞「〜が…したことには」
○apologize to 〜（人）for …（原因）「…のために〜に謝る」

前置詞のマスター5 “with”

解答・解説

- (1) “Handle With Care”
○決まり文句なので覚えておく。
○with + 抽象名詞 = 副詞
Ex. with ease = easily, with care = carefully, with skill = skillfully

with difficulty = barely など

(2) I'll be with you in a minute.

○ with you で「あなたと一緒に」

(3) There is nothing wrong with this machine.

別解 Nothing is wrong with this machine.

○ ‘関連’の with (～に関して)。

(4) This method is not recommended for patients with diabetes.

○ ‘所有・病気’の with (～を持った)。

(5) You must not eat with your hat on.

○ ‘付帯状況’の with。with + O + C (OをCの状態にして) と書かれることも多い。

(6) We are at war with terror.

○ ‘対立’の with (～に反対して)。

【4】

ポイント

整序英作文を解きながら、どの部分を倒置させるべきか、なぜ倒置されるのかを確認していく。詳しくは‘倒置’の回でも扱う。

解答・解説

(1) (Not) another word did she say until they left (the room.)

○ 否定の目的語が前置されると、そのあとが倒置形になることが多い。

(2) (Never) in my life have I heard (such a stupid thing!)

○ 文修飾の否定の副詞が文頭に置かれると、その後は必ず倒置形になる。

(3) (Not) until you lose your health do you realize (its value.)

○ Not until you lose your health が否定の副詞節を作り文頭に出ているため、その後は倒置形にする。

(4) (No) doubt he meant well but he did it in a mean (way.)

○ no doubt (おそらく) の no は文全体を否定するものでなく、doubt のみを打ち消す語否定であるから、その後は倒置形にならない。

(5) (No) sooner had the train got out of the long tunnel than the snowy country caught (my eye.) (= The train had no sooner got out of the long tunnel than the snowy country caught my eye.)

○ No sooner という否定の副詞が文頭に出ているため、その後は倒置形になる。

(6) (Tired) as I was, I was still (unable to sleep.) (= Though I was tired, ~)

○ [] as S V, ~ = Though S V [], ~ の形式。

(7) (Suddenly she felt that being with Tom was like being with her father, and she understood that she) did not love him, nor he her. (= ~, nor did he love her.)

○ 英語は繰り返しを嫌う言語と言われる。nor V S で、繰り返しの部分を省略した結果、

nor he her だけが残ったと考えればよい。

- (8) (Among the things) that made a strong impression upon me while young was (my elder sister's great talent for music.)

○ Among 以下は前置詞句で, was の主語である talent が後置されている。なお, among は「～の中の1つ」と訳せる場合がある。

Ex. He is among my friends. (= He is one of my friends.)

(彼は私の友人の一人です。)

- (9) (Still strongly) impressed on my mind is something this woman happened to murmur (while she was clearing up after a meal.)

○ 全体として, 補語が前置された C + V + S の形となっていて主語は something である。something の後には関係詞 which [that] が省略されている。

【5】

解答・解説

順に, 土曜日・いなかった・月曜日。

○ till/until を「～までずっと」の意味で用いる場合は本問のような曖昧さが生じる場合があるため, 特に英作文では注意する。

【6】

ポイント

会話の流れを正確に読み取って, 接続関係に注意する。

解答・解説

- (1) after

○ 「式が始まったあとになるまで着けない→式が始まった後になってようやく着く」と考えればよい (= It is not until after the wedding starts that we will get there.)。

- (2) by

○ by ～ 「～までに」は基本事項。

- (3) before

○ 式が始まる「前に」着きたい。

- (4) through

○ 「月曜日から土曜日まで」を from Monday to Saturday とすると, 土曜日が含まれているか明らかでなくなる恐れから, (主に米語では) 土曜日を含むことを明記するために through を用いることがある。

- (5) but

○ 「しかし」日曜日は運行していない。

- (6) As long as

○ as long as S V (SがVする限り (= if S V)) と '条件' を表す。as far as S V は '範囲' の限定であるからここでは不適。

- (7) since

○主節が現在完了形であることにも注意。

全訳

男性と妻が結婚式出席のため大阪旅行を計画している。

妻：もし9時のひかり号に乗れば、着くのは結婚式が始まった後になってしまう。遅くとも11時40分までには式場に着いていなくては。

男：もちろんだよ。当然、式が始まる前に着きたいよね。8時25分のもぞみ号にしよう。

妻：時刻表によれば、その列車は月曜日から土曜日まで運行しているけど日曜日は走っていないよ。もっと早い列車に乗らないと。余裕をもって着きたいから。

男：間に合って着けさえすればそれでいいけど。結婚式ってどんなものか知ってるよね。必ず遅れて始まるものさ。

妻：ああ、大阪かあ。あなたの妹の結婚式以来行ってないわね。

男：まあ、式が終わったあとに最大でも3時間は自由な時間が取れるはずだね。もしかしたら大阪城に行けるかも。好きだったよね？

妻：結婚式に出る着物を着てプレゼントが詰まったバッグを持って3時間も大阪をうろうろ歩かせるなんて思ってませんよね。

男：ちょっと提案しただけだよ。

妻：ああ、結婚式。とってもロマンティックだわ。

今日の一言

If wishes were horses, beggars would ride.

「望んで馬が手に入るなら乞食でも馬に乗るだろう。」

典型的な仮定法過去の表現である。もし wishes = horses, つまり、「望むだけで馬になるなら」、乞食だって馬を手に入れて乗ることが出来てしまう。地球上のすべての人が、望んだだけで望んだものが手に入るになってしまう。しかし現実には、願望だけでは何事も成就しないものだ。合格したいという願望は大切であるが、それを実現させるのはあなた自身の“action（行動）”である。

添削課題

全訳

ある国家の繁栄が、しっかりとした安定性と、変わることのない伝統や制度の保存に基づいているという信念が捨てられてきたのは、ごく最近のことである。その信念が普及している場所ではどこでも、新しい意見は迷惑であると同時に危険であると感じられ、すでに一般に認められている原則のいわれや因縁についての不都合な問いを投げかける者は誰でも、有害な人間だと思われる。

解説

- ℓ. 1 ◇ It is only recently that … : 強調構文 'It is ~ that …' で '～' の部分を強調する。
[men have been … only recently]
◇ abandon 「～を捨てる」
◇ the belief that ~ 「～という信念」 that ~ は the belief と同格。
- ℓ. 2 ◇ on rigid stability
 and
 on the preservation of its traditions and institutions unchanged
 ○ depend on ~ 「～次第である」 on ~ が2つあることに注意。
 ○ rigid 「固い；固定した；柔軟性のない」
 ○ stability 「安定性」
 ○ preservation of ~ 「～の保存」 preserve ~ の名詞表現。
 ○ its traditions and institutions unchanged 「変化していないその国家の伝統と制度」
 < its traditions and institutions (which are) unchanged
- ℓ. 3 ◇ wherever … 「…な所はどこでも」
 ◇ prevail 「打ち勝つ；普及する」
 ◇ novel 「新しい；奇抜な」
 ◇ A as well as B 「B同様にA」
- ℓ. 4 ◇ annoying 「迷惑な」
- ℓ. 5 ◇ accepted principles 「一般に認められている原則」